

認知症看護認定看護師



鬼澤 直人

当院は、2015年9月に認知症患者医療センターに指定されました。できる限り住み慣れた地域のよい環境で、自分らしく暮らし続けることができるように支援していきたいと考えています。

急性期病院である当院に、認知症のある方が身体疾患を合併して入院された際には、身体的症状、環境的ストレス、心理的ストレスなどによる苦痛の軽減に努めています。病院に入院という環境の変化により、ご自宅で生活されている時には、経験したことのない不自由さを経験するかもしれません。そのような時には、「患者さんの立場で考える」視点を大切に、今までできていた日常生活動作が継続できるように生活のお手伝いをさせて頂いております。

患者さんが置かれている状況や、言葉・行動の背景にある気持ちを正しく理解し、入院環境を整え、患者さんにとって看護師が安心できる存在になれるように支援しています。

今後も、認知症のある方の意思を尊重して病院内での多職種連携、そして地域連携を通じて皆様のお役に立てるように、日々活動してまいります。

お知らせ



7しおばおちゃん教室

申込方法・お問合せ先：産婦人科外来 受講料：お一人 3,000円
場所：母子保健相談室



開催日	13:00～15:00
1月20日(水)	講義「最近の育児について」、赤ちゃんの沐浴、お世話の仕方等
3月16日(水)	

糖尿病教室

申込方法・お問合せ先：医療社会事業課 受講料 500円(当日払込)
場所：山崎記念講堂



日時	13:00～14:00	14:00～15:00
2月6日(土)	糖尿病と神経疾患 鎌田 智幸(神経内科)	糖尿病と向き合う 藤田 進彦(吉祥寺・藤田クリニック)
3月5日(土)	糖尿病と眼 池上 靖子(眼科)	質疑応答 杉山 徹(内分沁代療科)

心臓病教室

申込方法・お問合せ先：循環器外来 無料
場所：山崎記念講堂



日時	14:00～15:00
1月20日(水)	【医師から】不整脈について(原因、検査方法、治療方法、予防方法など) 【看護師から】除颤など緊急方法、不整脈日誌などの記録法など
3月16日(水)	【薬剤師から】高血圧症と薬について 【看護師から】塩分管理と食事法



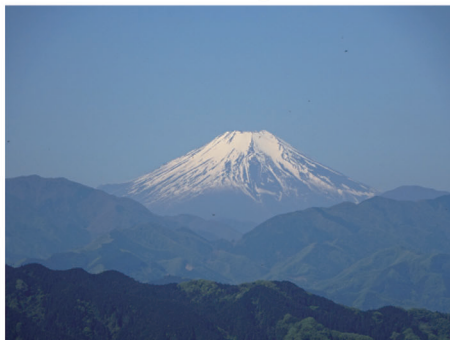
武蔵野赤十字病院

No.47

2016年 冬

〒180-8610
東京都武蔵野市境南町1-26-1
TEL. 0422-32-3111
季刊 情報誌

Eye むさしの



高尾山 頂上付近からの富士山

基本理念

●病む人への愛

●同僚と職場への愛

●地域住民と地域への愛

●地球、自然、命への愛

基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供します
- (2) 地域中核病院としての機能向上を図ります
- (3) 地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進めます
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続します
- (5) 働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくります

新年のごあいさつ



昨年のワールドカップラグビー日本代表の活躍には胸が熱くなる思いがいたしました。今年も出来ればさらに楽しく感動を受ける出来事があってほしいものです。

当院は1949年の創立以来66年間の武蔵野の地で、地域に安心を与える病院として成長してまいりましたが、現在の当院を表す一部の数値をご紹介します。武蔵野赤十字病院を理解する一助としていただければ幸いです。常勤医師は228人にもなりますし、職員は全体で1,719人おります。武蔵野市でも大きな施設の一つでしょうか。1年間に当院で生まれた赤ちゃんは1,244人、救急車で運ばれた方は8,249人、入院された患者さんは17,950人などです。これを見ても当院がいかに忙しく働いている病院であるかがお分かりになることと思います。また日本全国で大きな病院は大学病院を含め1,580ありますが、その機能の高さを表す機能評価係数という数値では、大学病院に準ずる機能を持った病院（Ⅱ群病院：全国で99病院のみが指定）のうち13位、東京で認定された13病院の中では2位と高い評価を得ております。この高度な機能を地域のみなさまのために十分発揮することが当院の使命と考えております。今年もどうぞよろしくお願いたします。

院長 丸山 洋



新年、明けましておめでとうございます。

昨年、「バック・トゥ・ザ・フューチャー part II」という30年前の米国映画が話題になりました。1985年、ドクが発明したタイムマシンに乗って主人公が訪れるのは、2015年、まさに昨年です。この映画の中で描かれているものは実際実現したのか、ということが話題になったのです。薄型テレビや指紋認証システムは実現していましたが、空飛ぶ車はまだ。製作者はどのくらいのことが実現しているかと思っていたのでしょうか。科学の発展は想像以上に早いように感じます。医療の世界も目まぐるしく変化します。人々の健康を守るため、今年はどうなことが生み出されるのでしょうか。ほんやりしている立ち行かなくなるような勢いです。効率的な医療を提供しつつ、人にやさしい赤十字マインドで今年も皆様のお手伝いをしたいと思ひます。本年もよろしくお願いたします。

看護部長 若林 稲美



診療科のご紹介

膠原病・リウマチ内科

部長 高村 聡人



「膠原病」ということばは、聞き慣れない方も多く思っています。実際、患者さんのなかにも「わたし、山になんか登っていませんよ」とおっしゃる方もいらっしゃいますが、「高山病」と「膠原病」はまったく違う病気です。「膠原病」はおもに免疫の異常によって起こる病気であり、全身の様々な臓器がおかされる全身性疾患です。その原因はまだ分かっていない部分も多く、大部分の膠原病は国の定める指定難病（いわゆる、難病）に指定されています。

膠原病のなかで、もっとも有名な病気は関節リウマチです。関節リウマチの患者さんの体内では、異常に活性化した免疫が関節で炎症を引き起こし、その結果として関節の痛みや腫れが生じます。関節リウマチの特徴は、手や足の関節を中心に、長時間にわたる関節の炎症が起こること、これが長く続くことと関節の破壊を来して手や足が変形していきます。また、手の関節のなかでも遠位指節間関節（いわゆる第1関節）にはほとんど炎症が起こらず、近位指節間関節（いわゆる第2関節）や指の付け根の関節に炎症が起こりやすいという特徴があります。20年ほど前までは、関節リウマチにはあまり有効な治療法がありませんでした。しかし最近では、内服や点滴で用いるさまざまな治療法が登場し、関節リウマチの治療成績は非常に良くなりました。残念ながら、いまだに完治する疾患ではありませんが、痛みや腫れを完全に取り除き、元通りの日常生活を送ることが出来る「寛解」状態に至ることが出来るようになってきました。また、膠原病には、関節リウマチ以外にも全身性エリテマトーデス、多発性筋炎・皮膚筋炎、シェーグレン症候群、強皮症など、多くの疾患が含まれます。これらの疾患についても、関節リウマチと同じように完治を望むことは難しいものの、さまざまな治療法で寛解状態に至る患者さんが増えてきています。

膠原病のもう一つの特徴として、診断が難しいという点が挙げられます。よく、「血液検査でリウマチと言われた」「血液検査で膠原病は大丈夫と言われた」という患者さんがいらっしゃいますが、実は膠原病は血液検査だけでは診断することも否定することも難しい病気です。その診断には、血液検査だけではなく症状や身体所見（おからの状態）、その他の検査を組み合わせた判断が必要となります。一般に、関節の痛みや原因不明の発熱、皮膚の症状、口や眼の乾き、腎臓や神経の異常などが複数みられる場合に膠原病を疑いますが、それぞれの患者さんで症状や経過が大きく異なるため一概には言えません。

当科は、常勤医2名と非常勤医2名の体制で膠原病の外来・入院診療を行っています。関節の痛みでお悩みの方、上記のような症状があって膠原病の疑いがあるとご心配の方は、一度専門医を受診されることをお勧め致します。